

牛乳パックからはがきを作って、夏休みの思い出を絵はがきにしよう！
身近な紙からリサイクルを体験しよう！

第14回

手づくり



絵はがきコンクール

日本製紙連合会は、子どもたちに紙への関心を高めてもらうとともに紙のリサイクルを身をもって体験してもらうことを目的に当コンクールを開催しています。
夏休みの自由課題として、ふるってご参加ください。

作品募集

小学生に限ります。

募集テーマ：「夏休みの思い出」をテーマに絵を描いてください。

応募条件：牛乳パックなどをほぐして、紙すきしたハガキサイズの紙に、手描きで描いてください。画材は絵の具、クレヨンなどいずれも使用可能です。
※応募作品は1人1点とし、未発表のオリジナル作品に限ります。

締め切り：平成29年9月11日(月)当日必着

募集部門：団体の部…クラス単位、学年単位、学校単位などで応募

個人の部…個人単位で応募 ※なお、団体の部で応募された個々の作品は、個人の部でも審査されます。

募集宛先：(株)インタープレス 手づくり絵はがき係 〒104-0031 東京都中央区京橋1-17-2 昭美京橋ビル

応募方法：ホームページにある応募用紙に必要事項を記入の上、作品と一緒に郵送してください。

審査：日本製紙連合会 広報委員会

結果発表：日本製紙連合会ホームページに12月中旬掲載予定です。



賞について：団体の部／最優秀賞 1団体 賞状および図書カード10万円分
優秀賞 2団体 賞状および図書カード 5万円分
特別賞 5団体 賞状および図書カード 1万円分

参加賞／ペーパー君「オリジナルノート」 応募者全員

個人の部／最優秀賞 1名 賞状および図書カード3万円分
優秀賞 6名 賞状および図書カード1万円分
※個人の部優秀賞は各学年1名
特別賞 10名 賞状および図書カード3千円分

第13回 個人の部 入賞作品

※入賞作品の一部です。
他作品はホームページをご覧ください。



第13回 団体の部 表彰式

受賞の喜びは、みんなの記憶に残る記念日になります。



◎最優秀賞に選ばれた団体、個人の方への表彰は、事務局が現地に行って表彰式を実施します。表彰式の模様ならびに一部入賞作品は、来年2月発行の週刊文春(広告ページ)に掲載を予定しています。

お問い合わせ先 >>> 手づくり絵はがきコンクール事務局(日本製紙連合会 総務・広報部) TEL:03-3248-4801
ホームページ: <http://www.jpa.gr.jp>

牛乳パックからのハガきの作り方

作り方は、HP動画でも見られるよ！ <http://www.jpa.gr.jp/about/pr/concour.html>

用意するもの

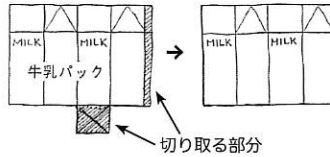
- ・牛乳パック・カッター・バケツ・なべ・ざる
- ・水・台所用中性洗剤・ミキサー・アイロン
- ・家庭用塩素系漂白剤・ふきん（または、タオル）・まな板
- ・木製のわく2コ（たて15cm、よこ10cm、高さ3cm）
- ・金網（網が細かく、わくより一回り大きいもの）

※間にはさむ網は、昆虫採集用の網、蚊帳、筆巻き、寿司用のすだれなどを使用します。

パルプ液の作り方

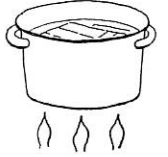
1. パックを開いて切る

- 〈目的〉パルプになりにくいところをとりぞく
- ①よく洗ってから開く。
 - ②紙が2枚になっているところを切り取る。
 - ③なべに入れやすいよう適当なサイズに切る。



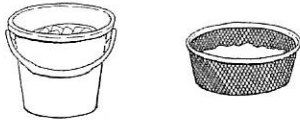
2. 中性洗剤で煮る

- 〈目的〉パックを柔らかくする
- ①なべに、水1リットルに台所用中性洗剤を小さじ2杯の割合で加えたものを用意する。
 - ②パックを入れて30分～1時間煮る。
- ※火の扱いに注意する
- ③これを半日間放置する。
 - ④水でよく洗う。
- ※なべが汚れるおそれがあります



3. 漂白剤につける

- 〈目的〉紙の中の薬品を分解する
- ①ポリバケツに、1リットルの水に家庭用塩素系漂白剤を小さじ2杯の割合で加えたものを用意する。
 - ②パックがよくひたるように入れる。
- ※有毒ガスが発生するので加熱しないこと
- ③一晚放置する。
 - ④パックの表面にあるフィルムを取り除き、ざるに入れてよく洗う。



4. パルプをほぐす

- 〈目的〉パルプ繊維をバラバラにする
- ①水をかけながらもむと、繊維が簡単にバラバラになる。
 - ②ミキサーで攪拌する。適当に水を加えてよく攪拌できるようにする。繊維のかたまりが無いようにするのが、なめらかな表面の紙にするポイント。



5. パルプ液を作る

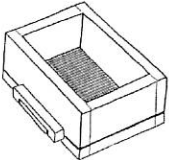
- 〈目的〉ハガキを作るのに適当な濃度（濃さ）にする
- ①バラバラにした繊維を適当な濃度のパルプ液になるように水でうすめる。その目安として、放置すると繊維が下にしずみ、上ずみができるくらい。または、すきわくに600～700ml入れるとよい厚さの紙になる。
 - ②紙すきすきときは十分にまぜて使うこと。
 - ③すぐに使わないときは、金網のざるで水をしばり、ポリ袋に入れて冷蔵庫にしまっておく。（腐敗防止）

“繊維”とは小さくて細長い形をしていて、紙を破ったときにヒゲのように見えるもの。
“パルプ”とは繊維がたぐさ集まったものをいいます。

紙のすき方（作り方）

1. すきわくをセットする

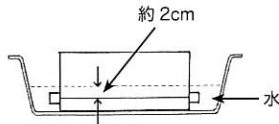
- ①上わくと下わくの間を網をはさみ、わくを組合わせる。



※間にはさむ網は、昆虫採集用の網、蚊帳、筆巻き、寿司用のすだれなどを使用します。

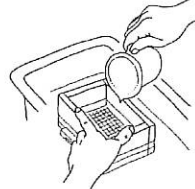
2. 水槽に入れる

- ①適当な容器に水を入れる。水の深さは上わくが約2cmひたるくらい。



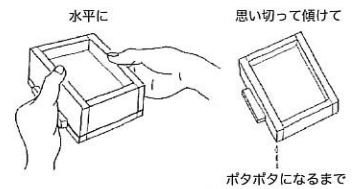
3. パルプ液を入れる

- ①すきわくを手でしっかり押さえて、600～700mlのパルプ液をあふれないように入れる。パルプ液の量でハガキの厚さが決まる。
- ②パルプ濃度にムラがあるようなら棒でかきまぜる。



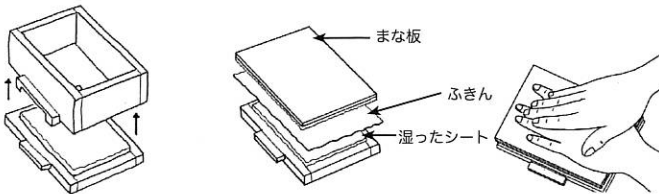
4. すきわくを持ち上げる

- ①すきわくを水槽から水平に持ち上げる。
- ②水がある程度抜けてパルプが動かなくなったら、すきわくを傾けて、水がポタポタ落ちるくらいになるまで水を切る。



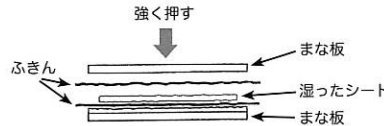
5. 上わくをはずし、ふきんとまな板をのせて水をしぼる

- ①上わくを上を持ち上げてはずす。
- ②ふきんを湿ったシートがこわれないようにかぶせる。
- ③まな板をかぶせる。
- ④まな板を押して水をしぼる。



6. ひっくり返して、ふきんとまな板をのせて強く押す

- ①まな板といっしょに下わくをひっくり返す。（下わくが上になる）
- ②下わくと網をとりはずす。
- ③この上にふきんとまな板をかぶせる。
- ④まな板の上からできるだけ強く押して、水をしばり出す。



7. 新聞紙で水を吸い取る

- ①ふきんにはさんだままで、湿ったシートを取り出す。
- ②3～4枚重ねた新聞紙にはさむ。
- ③平らなところに置いて、まな板をのせて強く押す。
- ④新聞紙を取り替えて、2～3回繰り返す。湿ったシートはふきんをはずしても手で扱えるようになってくる。



8. アイロンなどで乾かす

- ①アイロンで乾かす。アイロンの端が湿ったシートにくい込まないよう最初はゆっくりかけること。
 - ②アイロン用スプレーのりを使用するとニジミ防止になる。
 - ③アイロンのかけ方で紙表面のなめらかさが違ってくことに注意。
- ※板やガラスなどに張り付けて自然乾燥する方法もある。



注意：プリント機器等での印刷は、プリンターが壊れる恐れがあるため、使用しないでください。

保護者の皆様、学校の先生方へ

牛乳パックからはがきを作る際には、漂白剤や熱湯を使用しますので必ずお子さんに付き添っていただきますよう、お願い申し上げます。

【個人情報の取り扱いについて】

お預かりした個人情報は、手づくり絵はがきコンクール事務局（日本製紙連合会）にて厳重に管理し、児童並びに応募責任者（保護者・教諭）への各種連絡、参加賞・賞状・副賞を発送する際に使用させていただきます。また応募作品並びに表彰式の模様は、日本製紙連合会の広告・宣伝の為に使用させていただく場合がございます（日本製紙連合会ホームページへの掲載等）。その他応募者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはございません（法令等により開示を求められた場合を除く）。なお、お預かりしました個人情報は、作品の返送、賞状・副賞、参加賞の発送後、一定期間保管し、破棄させていただきます。

注意事項

作品保護のため、必ず厚紙などを入れて郵送してください。

12月上旬をめどに、参加賞の進呈および作品を返却します。（団体応募の場合は、代表者へ返却します）